TASCAM

楽器演奏を効率良く上達させる！

ギター&ベース・トレーナー

TASCAM GB-10を使った練習術

楽器上達の最も効果的な練習法とは何でしょうか。それは繰り返しの（反復）練習と自分の演奏を録音して改善点をハッキリとさせる、ということの2つです。TASCAMのGB-10は演奏がうまくなるための練習に必要な機能をコンパクトなボディーにギュッと凝縮したギター&ベース・トレーナーです。GB-10を使った、楽しみながら上達できる練習法を紹介します。

これだけあればOK！

皆さんはギターやベースを練習する時はどのようにしていますか。生音で練習する人もいれば、アンプやエフェクターをつなぐ人、アンプやエフェクターの外部入力端子に音楽プレイヤーを接続して、「好きな曲に合わせて弾いています！」という人もいるかもしれません。楽器の演奏がうまくなるためには練習が欠かせませんが、どうせなら練習も楽しみながら行いたいと思いませんか。

TASCAMのギター&ベース・トレーナー「GB-10」はその名の通り、ギターやベースを効率的に練習するために開発されたトレーニング・マシンです。パッと聞いた感じでは難しい機材のように思うかもしれませんが、使い方は非常に簡単です。

GB-10の大きな特徴がギターやベースとシールド・ケーブル、ヘッドフォン／イヤフォンさえあれば、楽しく練習ができるということ。「ちょっとギターを弾きたいけれど、アンプにつなぐのは面倒だなぁ…」というのは誰もが一度は思ったことがあるはずです。GB-10のコンパクトなボディーの中にはチューナーやメトロノームといったお馴染みの機能から好きな曲を再生するための音楽プレイヤー、さらにはアンプを鳴らしているかのような迫力のあるサウンドを楽しめるエフェクターまで内蔵しているので、これ1台で普段の練習を存分に楽しむことができます。では、実際にGB-10を使った練習を始めましょう。

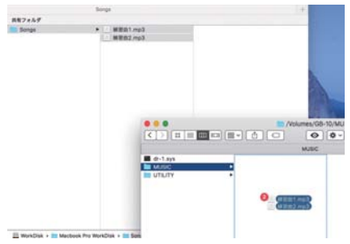
STEP.1 コピーしたい曲を取り込む

コピー曲を練習している場合は原曲を聴きながら演奏するのが一番です。GB-10はSDカードに保存された音楽ファイルを再生することができるので、まずはSDカードに原曲の音楽ファイルをコピーしていきます。

コピーの方法はSDカードを直接パソコンに接続する、もしくはGB-10とパソコンをUSBケーブルで接続すればOK（写真1）。ここではパソコンに直接接続してみました。すると、パソコン上にGB-10が表示されるので、画面1のようにコピーしたい音楽ファイルをGB-10の「MUSIC」フォルダの中に入れていきます。なお、GB-10はmp3やWAVフォーマットの音楽ファイルに対応しています。

音楽ファイルの取り込みができたら、パソコンとの接続を解除して、準備完了。GB-10の再生ボタンを押せば、取り込んだ曲が再生されます。

写真1



画面1

STEP.2 ギターとイヤフォンをつなぐ

次に、GB-10の本体右側面の端子にギターやベースとイヤフォン／ヘッドフォンを接続しましょう（写真2）。今回はGB-10に内蔵されているエフェクターを使用するので、ギターを直接接続していますが、お気に入りのエフェクターを使うことも可能です。なお、イヤフォン／ヘッドフォンから聴こえる音量はOUTPUTボタンで調整することができます。

写真2

STEP.3 楽器をチューニングする

練習を始める前にしっかりと楽器をチューニングしておきましょう。本体の「TUNER」ボタンを押せば、チューナー・モードが起動します（写真3）。チューニングがズレた楽器で練習を続けていると、音感が悪くなってしまうので注意が必要です。必ずチューニングを合わせてから演奏する癖を付けておきましょう。

写真3

STEP.4 エフェクターを設定する

この状態で、プレイヤーに取り込んだ曲とギターの音がミックスされてイヤフォンから聴こえているはずです。しかし、素のギターの音では「弾いている感じ」が出ませんよね。そんな時はエフェクター機能の出番です。

本体の「EFFECT」ボタンをONにすると、GB-10に内蔵されているエフェクター機能を使用することができます。その際にEFFECTボタンを長押しすれば、細かくサウンドを調整することができます。例えば、AMPの項目で歪んだディストーション・サウンドを作ったり、FXでディレイをかけるなど、自由自在です（写真4）。自分で作った音を保存しておくこともできるので、お気に入りの音をどんどん作っていきましょう。

なお、この状態では取り込んだ曲の音の方が大きいため、自分のギターの音が聴き取りにくいはずです。そんな時は「BALANCE」ボタンを押して、ギターと曲の音量バランスを演奏しやすいように調整してください。

写真4

STEP.5 ループ機能で繰り返し練習

ここまで設定するだけでも、曲を聴きながらの演奏がとても快適に行えます。曲の再生や停止などは音楽プレイヤーと同じデザインなので、簡単に操作できることでしょう。ですが、GB-10がすごいのは実はここからなんです。

曲に合わせて練習する際、1曲を通して弾き続けるのはあまり効率が良いものではないと思います。AメロやBメロ、サビだけ…といった具合で曲のセクションごとに練習していく方が効果的ですが、毎回巻き戻しの操作をするのは面倒です。そんな時は「ループ機能」を活用しましょう。ループとは曲の指定した範囲だけを繰り返し再生する機能のことで、GB-10はループ範囲の指定も簡単です。

まずはループの始めのポイントを指定します。曲を再生し、指定したいポイントになったら本体の「LOOP」ボタンを押しましょう（写真5）。同じように、ループを終わりたいポイントになったらLOOPボタンを押します。これだけで指定した範囲が繰り返し再生されます。

写真5

GB-10のすごいところは1曲あたり、同時に5つまでループ・ポイントを設定できるということ。例えば、イントロ、Aメロ、Bメロ、サビという具合に設定しておけば、イントロが弾けるようになったら、次はAメロ…という風に素早く練習するセクションに移動することができます。ループ機能自体はあまり珍しくありませんが、複数のループを設定することができるのはGB-10ならではの魅力的なポイントです。

STEP.6 難しいフレーズを攻略する

曲の途中で速いフレーズが出てきたり、ギター・ソロのような難しいフレーズを攻略するには繰り返しの練習だけでは不十分。そのまま何百回練習しても、なかなかうまくはならないはずです。

では、どうして弾けないのでしょうか。理由は簡単。そう、フレーズが速いから弾けないのです。それなら、曲の再生スピードを落として練習しましょう。GB-10の「SPEED」ボタンを押すと、ディスプレイの表示が切り替わります。この状態で「VALUE」ボタンを押せば、曲のテンポを10%単位で50%（半分）～150%（1.5倍）まで調整することができます（写真6）。

写真6

GB-10にはVSAという機能が搭載されているので、曲の音程を保ったままテンポだけを変えられます。テンポを変えた時の音質の劣化も最小限に抑えられているので、速弾きフレーズの演奏ニュアンスもバッチリと確認することができます。

半分のテンポで練習していると、だんだんフレーズにも慣れていくことと思います。指板を見なくても弾けるようになったら、10%ずつテンポを上げていきましょう。ここで焦りは禁物です。速弾きで大切なのは速く弾くことだけではなく、1音1音をしっかりと演奏するということ。一気にテンポを上げてしまうと、ピッキングが荒くても「弾けたような気持ち」になってしまうので、じっくりと取り組むのが上達のコツです。

オリジナルのテンポで弾けるようになるまでは相当時間がかかると思いますが、2曲目、3曲目と同じようにコピーと練習を続けていくうちに時間がどんどん短縮されていくはずです。これが「上達した」という証明になります。その頃には、きっと練習するのが楽しくなっていることでしょう。そうなるためにも、GB-10でコツコツと練習することが大切です。

STEP.7 録音して確認しよう

演奏しながらでは、どうしても演奏に気が向いてしまうので、「弾けているつもり」になってしまいがち。本当に弾けているかを確認するためには、録音して聴き返すのが一番です。

「録音」というと難しいイメージがあるかもしれませんが、GB-10なら「録音」ボタンを押すだけで、すぐに演奏の録音チェックが可能です。そのまま録音ボタンを押すとギターだけが録音されますが、「録音」ボタンと「再生」ボタンを同時に押せば、練習中の曲の上に自分の演奏を録音する「オーバーダビング録音」が行えます（写真7）。この方式で録音しておけば、演奏を聴き返した時にちゃんと曲に合っているのかをチェックすることが可能。フレーズがちゃんと弾けているかも大切ですが、演奏のタイミングやノリが曲と合っているかにも気を付けて聴けば、さらに効果的です。

演奏を聴き返すことで自分が弾けていない部分がハッキリとわかるようになるので、あとはSTEP5～7を繰り返していけば、確実に演奏技術が上達するはずです。

写真7

まだまだある便利な機能

GB-10には、その他にも様々な機能が搭載されています。例えば、コピーしたい曲がドロップ・チューニングだったり、原曲とは違うキーで演奏するという場合、GB-10で曲のキーを自由に変えることができるので、どんなキーの曲でもバッチリです。シンプルなメトロノーム機能も備えているので、運指やメカニカルなフレーズの練習にも活用することができます。GB-10を使って、楽しく上達していきましょう。

写真8